

市川学園1月28日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

寺嶋 毅 先生

自身の医師スタイルから考える学びの魅力

—COVID-19 診療に至るまで—

東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科部長・教授

寺嶋毅先生のご紹介

- 1990年 社会保険埼玉中央病院勤務
- 1992年 慶應義塾大学医学部内科学教室呼吸循環研究室
- 1995年 University of British Columbia 留学
- 1997年 慶應義塾大学医学部内科学教室呼吸循環研究室
- 1992年 東京歯科大学市川総合病院内科学講座助手
- 1999年 東京歯科大学市川総合病院内科学講座講師
- 2008年 東京歯科大学市川総合病院内科学講座准教授
- 2012年 東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科准教授（配置替）
- 2014年 東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科教授



主な講義内容の紹介

2022年度第8回目の土曜講座は、東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科部長・教授の寺嶋毅先生によるご講演でした。正の整数の和を題材にした数学的思考と医師としての診療の関連性や、本を読むことで豊かな心を養うことの大切さなど、学校の勉強が将来にどのように活かされるかを具体的に教えていただきました。また、医師国家試験の問題やトロッコ問題を通して、人の気持ちを考える力

の大切さや正解のない問題に対応する力をお話していただきました。受講レポートの中には「今勉強していることが、将来役に立つことが分かった。」という感想が多数あり、演題にもある学びの魅力が生徒たちに充分伝わったのではないかと思います。

質疑応答の時間も生徒の様々な質問に丁寧に答えていただき、非常に有意義な時間となりました。



受講レポートから

- ・数学、国語、英語、クラブ活動など私たちの生活において身近なもの、先生が体験された医療現場においての事実を比べて、共通点を見出してくださったことが一番分かりやすかったです。また、それぞれの教科において、大事な心構え、理想的な思考、育むべき豊かな心など、人間として、生徒として、ためになることばかりでした。人生において何度も選択を迫られるし、人と接する中でも難しい点が出てきますが、それをトロッコ問題や実際の患者さんの様子など、具体例を用いてお話しして下さったところが印象に残りました。（中1女子）
- ・医師という職業は理系のイメージが強かったが、国語やスポーツなどからも必要となる力があることが印象に残った。COVID-19やワクチンに対して今まで知らなかったことを学ぶことができ、視野が少し広がったと思った。また、それぞれの教科で重要なことが資料にまとめてあり、寺嶋先生御自身の体験も交えてあって分かりやすかった。自分もこれらを意識して、日々の勉強に取り組んでいきたいと思った。（中1女子）
- ・数学を勉強することで、本質を捉える力、粘り強さ、論理的思考力を身につけたり、本を読むことで豊かな心を養ったり、コミュニケーションツールとして英語を勉強したりするなど、学校で学ぶことは社会に出た後にもすごく役立つのだと思った。学校での勉強は定期考査や模擬試験のためだけではない（もちろんそれも大切ではあるけど）と気付いたので、その場しのぎで乗り切るだけでなく、もっと奥深い部分も大事にしたい。また、今後も新型コロナウイルスとの関わりは長く続くだろうけど、様々な人の意見に触れ、デマ情報などを信じないようにしたい。（中2男子）
- ・普段自分がこんな分野いらないうちで勉強している教科もきちんとやることで、将来非常に役に立つということが伝わりました。自分は精神科医を志望していて、患者さんの声に耳を傾けて気持ちを察することは本当に重要だと思うので、まずは読書をする事でこの能力を身につけていこうと思いました。また、勉強（学び）と医療を結びつけて説明して下さっていて、分かりやすく楽しく聞くことができました。特に、アクセント・発音の仕方について、寺嶋先生の体験を交えて聞くことができ楽しかったです。（中3女子）
- ・研究や医師の仕事との共通点を通して、学習の重要性と魅力を新たな視点から知ることができました。また、コロナに関する予防や重症の患者さんたちの現状や助からなかった事例に衝撃を受けました。私も入院時に面会が禁止され寂しい思いをしたため、今も多くの患者さんが辛い思いをしていると考えると、コロナの収束への協力をまた改めて強固にしなければならぬと思いました。貴重なご講演ありがとうございました。（高1女子）
- ・学校での勉強やクラブ活動が医師としての診療にどのようにつながるかということが分かった。高校2年生として受験勉強を本格的にスタートした今、寺嶋先生のお話をうかがい、今自分がやっていることは大学受験で終わってしまうものではなく、一生続いていくものだということが分かった。また、患者さん1人1人にそれぞれの意見や背景があるため、医師として1つ1つの判断に難しさがあることが分かった。（高2女子）

